

国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 E-mail: jifrs.kaiyodai@gmail.com

郵便振替番号：00940-0-211673 国際漁業学会

2020 年度第 1 号

2020 年 6 月 17 日刊

目次

- | | |
|---------------------------------|----------|
| 1. 理事あいさつ「国際漁業学会と考える今日的社会的貢献」 | 中島 亨 |
| 2. 2020 年度 JIFRS 大会（関西学院大会）のご案内 | 東田啓作・事務局 |
| 3. 新型コロナウイルスによる影響への注意喚起 | 事務局 |
| 4. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼 | 川辺みどり |

1. 国際漁業学会と考える今日的社会的貢献

中島 亨（国際漁業学会理事・三重大学）

日頃、水産物というよりも農産物を分析対象とすることが多い私ですが、資源量の減少等による水揚げ量の減少や、新型コロナウイルス感染拡大にともなう需要の減少で、今日の漁業者を取り巻く環境が非常に厳しいものであることは承知しています。特にこのコロナ禍においては、医療従事者を中心として、他人や社会のために自らを犠牲にして懸命に取り組まれている方々がいる一方で、研究者として今日の状況に対し何ができるのか頭を悩ませつつも、何もできずにいる自分を情けなく思っているところです。ワクチンの開発のような、比較的短時間で世界を劇的に変えることができる研究はできそうにありませんが、少しでも一次産業の担い手である生産者にとって役立つ情報が提供できるよう、研究を続けていくことはできると思い直しています。

私がこれまで国際漁業学会で成果を発表した研究のほとんどは、自らが農産物を対象に分析を行った手法を水産物に適用したものでした。その中には、フードシステムにおける各流通段階の価格伝達を分析することで、産地市場や消費地市場における競争のあり方を検討したものや、需要モデルの推計により水産物の代替関係を明らかにしたもの、応用一般均衡モデルを用いて水産物の関税削減の影響について検討したものが 있습니다。現在は、「我が国の農業生産強化を目的とした食品の消費者需要研究」を中心的な研究テーマとし、様々な農産物・食品やその諸特性に対する消費者の支払意思額を明らかにすることで、生産者がどのような特徴を持つ商品をどのような消費者に販売したら収益性が向上するか、また、どのよう

な生産技術を開発したらその技術を採用して生産された商品の需要が確保できるか、といった提言を行うための情報を蓄積する取り組みをしています。

こうした消費者需要に関する研究においては、仮想的なアンケート調査や消費者選択実験を実施する際、回答者が日頃の購買行動を表明しないことなどにより、推計された支払意思額が真の支払意思額から乖離するという仮想バイアスの問題が指摘されています。この仮想バイアスをできる限り少なくするため、選択実験において回答者に実際にお金を支払って商品を購入してもらったり、他の消費者との競争のメカニズムを使って真の支払意思額を明らかにしようとするオークション法などを用いるといった取り組みを行っています。こうした方策によりバイアスが低減されれば、より信頼度の高いエビデンスが得られることとなります。また、選択実験に用いられる属性やその水準について、香気成分や機能性成分など、商品の品質を特徴付ける成分を選択肢属性として採用し、それらの成分の含有量の違いが支払意思額を変化させるかどうかについても検討しています。「甘い」「酸っぱい」や特定成分の「ある」「なし」などの定性的な情報よりも、具体的な分量の違いといった定量的な情報と支払意思額の関係を明らかにする方が、農水産物・食品の商品開発にとって、より有益なエビデンスを提供できると考えているからです。これらに加え、計量経済分析に機械学習の手法を取り入れることで、より精度の高い分析結果を得ることについても検討しています。

私のような漁業や水産業の実態に明るくない者でも、わずかながら貢献をさせてもらっている国際漁業学会は、数ある学会の中でも、かなり多様性に富んでいる学会であると思います。それは、漁業や水産業が多方面の知見を必要とする産業であることからもうかがえますし、実際、様々な学術分野の研究者が研究成果を報告してこられ、分野横断的な研究を行ってこられたことからもうかがえます。このような国際漁業学会において、未曾有の危機に直面している生産者に対し、研究者が研究成果という形でこれまで以上に有益な情報提供や助言を行う上で、私は以下の点がますます重要になってくると考えています。第一に、生産者が抱える個別具体的な問題が少しでも解決に近づくよう、分野によらず個々の研究のエビデンスレベルをさらに高め、提供可能な情報の質を向上させることです。第二に、ますます多様になる現場の問題に対処できるよう、多様な分野からの研究成果をコンスタントに集積し、可能であればさらに分野の裾野を拡大することです。第三に、個々の問題が相互に関連していることを踏まえ、分野横断的研究をこれまで以上に推進していくことです。私自身も、これらの点について微力を尽くしていきたいと思います。

2. 2020年度JIFRS大会（関西学院大会）のご案内

東田啓作（国際漁業学会理事・関西学院大学）・事務局

2020年度大会は関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス（最寄駅：阪急今津線 甲東園駅）にて行うことになりました。多くの会員、関係者の皆様からのご参加をお待ちしております。

会場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス B号館 1F
〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原1番町1-155



日時：2020年（令和2年）8月29日（土）～30日（日）

日程：8月29日午前 10:00-11:00 編集委員会（関西学院大学 B号館 102教室）

11:10-12:30 理事会（関西学院大学 B号館 102教室）

午後 13:00-18:00 シンポジウム（関西学院大学 B号館 103教室）

18:10-20:00 懇親会（関西学院会館 翼の間）

<http://member.kwangaku.net/kwangakukaikan/>

8月30日午前 個別報告（会場①:B号館1階102教室、会場②:B号館1階104教室）（個別報告申し込み数が多い場合、午後にも追加します）

午後 総会（B号館1階103教室）

後援：関西学院大学



KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY
関西学院大学

2020年度国際漁業学会（JIFRS）大会シンポジウム

「先端技術と漁業管理」

コーディネータ 松井隆宏（東京海洋大学）、東田啓作（関西学院大学）

資源ストックの減少に対処し持続可能な漁業を行うためには、正確なモニタリングと資源評価、利害関係者間での情報の共有、適切な漁獲量の管理が必要です。しかし、これらの実行には大きな費用が発生すること、個々の漁業者にとって情報を他者と共有するインセンティブが小さい場合があることから、利害関係者が合意できないケースも多いです。

この問題の解決につながり得る技術が近年急速に進歩してきています。GPS 端末と衛星画像によって、漁船の航跡や魚・魚群の移動経路を捕捉することができるようになってきています。先端技術は、正確な資源評価、迅速なデータ蓄積・共有と漁獲管理の実行につながるうえに、小さい費用で導入可能なものも存在します。一方、潜在的な問題点も存在します。資源評価や漁獲記録をどの程度正確に行えるかについては、さらなる実証実験によるデータの蓄積が必要です。開発途上地域の小規模漁業者にとっては費用が大きすぎる技術もあります。導入の際の費用負担の配分、および社会規範やとのコンフリクトも課題になります。こうした先端技術の導入の状況と課題に直面するなかで、今回のシンポジウムでは広く漁獲管理と違法操業監視への先端技術利用の可能性について、活発に議論していただきたいと考えています。

東田啓作

日時：2020年8月29日	13:00-18:00
司会 松井隆宏（東京海洋大学）、東田啓作（関西学院大学）	
開会挨拶 学会長 婁小波（東京海洋大学）	13:00-13:05
解題 東田啓作（関西学院大学）	13:05-13:25
報告1 森下丈二（東京海洋大学）	13:25-13:55
「地域漁業管理機関における資源管理コンセプトの進展・現状・課題」	
報告2 日高 健（近畿大学）	13:55-14:25
「漁業法改正による沿岸漁業管理の変化と課題」	
休憩	14:25-14:35
報告3 和田雅昭（公立はこだて未来大学）	14:35-15:05
「データ連携と管理型水産業」	
報告4 江崎修央（鳥羽商船高等専門学校）	15:05-15:35
「ITを用いた漁業支援—三重県を中心に—」	
報告5 大関芳沖（水産研究・教育機構）	15:35-16:05
「人工衛星によるモニタリング技術を用いた漁業活動の把握について」	
休憩	16:05-16:15
コメント1 若松宏樹（水産研究・教育機構）	16:15-16:30
コメント2 若松美保子（東京海洋大学）	16:30-16:45
ディスカッション	16:45-17:55
閉会挨拶 大会委員長 宮田勉（水産研究・教育機構）	17:55-18:00

◆報告予定者に向けた連絡事項

・個別報告について

個別報告は1報告あたり25分（質疑含む）の予定です。個別報告を希望する会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを、7月24日までに国際漁業学会事務局（jifrs.kaiyodai@gmail.com）までご連絡ください。また、8月7日までに報告要旨（40字×25行以内）を、8月23日までにパワーポイント等による報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

・報告論文について

シンポジウム報告および個別報告の報告者におかれましては、大会終了後に報告内容をベースとする10枚程度までのコンパクトな和文論文を「報告論文」として和文誌『国際漁業研究』に投稿することができます。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じで（ただし、審査は原則として2回までとする）、掲載料は1万円となっています。報告予定者におかれましては、「報告論文」への奮っての投稿をお願いします。

◆参加費・会費：当日受付にて徴収

大会参加費：一般会員 2,000 円、一般非会員 3,000 円（地元漁業関係者・学生は無料）

懇親会費：一般 5,000 円、学生 3,000 円

※懇親会へ参加される方は、7 月 28 日までにメールにて国際漁業学会事務局 (jifrs.kaiyodai@gmail.com) までお申し込みください。

※報告要旨集は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ (<http://www.jifrs.info/>) からダウンロードをお願いします。(8 月 12 日頃に掲載します)

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

3. 新型コロナウイルスによる影響への注意喚起

事務局

2020 年度大会が新型コロナウイルスの影響により実施方法の変更や延期となる可能性もあり、それに伴って報告論文の掲載時期も遅れる可能性があります。掲載時期を見越して報告論文の投稿を検討されている場合、掲載時期が大会延期に左右されないフルペーパーでの提出をお勧めします。

ただし、実施方法の変更などが必要となった場合には、改めてお知らせします。

4. 学会賞（国内賞）候補者の推薦依頼

川辺みどり（国際漁業学会学会賞選考委員長・東京海洋大学）

2020 年度の学会賞候補者の選考を開始します。選考要領は下記の通りです。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。賞の種類は以下の 3 種類です。推薦の際、歴代受賞者リストも参照ください。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員（個人）。過去 1 年間（2019 年 1 月～2020 年 4 月）の業績が対象です。

<奨励賞>おおむね 40 歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員（個人）。本学会誌第 18 巻掲載論文（会誌としては未刊行（近刊）ですが、on line ジャーナルの第 18 巻に掲載されている和文・英文の論文が対象となります。

募集期間：2020年7月28日（火）締め切り

推薦方法：推薦する賞のジャンルとその理由（形式自由）を、JIFRS 会長（婁小波 lou(at)kaiyodai.ac.jp）宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法：会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与：2020年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。

◆学会賞（国内賞）の歴代受賞者リスト

（2020年6月現在）

氏名	受賞時所属・職名	受賞年月日	備考
松田 恵明	鹿児島大学 名誉教授	2011年8月4日	功績賞
真道 重明	-	2012年8月5日	功績賞
八木 信行	東京大学 准教授	2012年8月5日	学会賞
中島 亨	東京大学 特任助教	2012年8月5日	奨励賞
松井 隆宏 原田 幸子	三重大学 准教授 株式会社地域資源経済研究所 研究員	2012年8月5日	奨励賞
榎 彰徳	NPO 法人 消費者支援機構関西 理事長	2013年8月4日	功績賞
有路 昌彦	近畿大学 准教授	2013年8月4日	学会賞
猪又 秀夫	水産庁	2015年8月9日	学会賞
小野 征一郎	東京水産大学 名誉教授	2016年8月7日	功績賞
黒倉 寿	東京大学 名誉教授	2017年8月6日	功績賞
阪井 裕太郎	Arizona State University Post-Doctoral Research Associate	2018年8月7日	奨励賞